

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	教育原理						
担当教員	松岡 靖						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「教育問題を教育学の概念で分析する」というテーマのもとで、第一の目的は学生が生徒として学習してきた内容を、教育学の基本的概念によって反省的に振り返ることである。第二の目的は教育学における理論のうちで保育者や保護者や教育者として役立つ部分を、学生が理解し活用できることである。</p> <p>具体的な概要としては、第一に学校教育制度の現状について歴史的な背景を含めて説明する。第二に学校化社会の成り立ちを業績原理とジェンダーの観点から考えさせる。第三にカウンセリングマインドを具体的スキルと思想史的背景から理解させる。第四に教育評価に関する類型論について比較検討させる。第五に教育そのものについて常識と定義の違いを説明する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要とアイス・ブレイキング</p> <p>第2回 高校と大学の違い(1)：皆さんが意識したズレとその理由は？</p> <p>第3回 高校と大学の違い(2)：教育制度と進学率の歴史</p> <p>第4回 高校と大学の違い(3)：社会学者が大学生を比べると？</p> <p>第5回 学校化社会の戦略(1)：帰属原理から業績原理へ</p> <p>第6回 学校化社会の戦略(2)：女らしさと業績原理のあいだには？</p> <p>第7回 学校化社会の戦略(3)：学校は塾と授業で勝負できるのか？</p> <p>第8回 カウンセリングマインド(1)：構成的エンカウンターを体験する</p> <p>第9回 カウンセリングマインド(2)：フロイトからロジャーズへの学説史</p> <p>第10回 教育評価を振り返る(1)：相対評価と絶対評価の違いは？</p> <p>第11回 教育評価を振り返る(2)：診断・形成・総括という三段階</p> <p>第12回 「教育」の常識から定義へ(1)：伝統的稽古と近代学校教育</p> <p>第13回 「教育」の常識から定義へ(2)：「発達への介入」としての教育</p> <p>第14回 教育原理を実践する：グループ発表と相互コメント</p> <p>第15回 レポートの返却と成績評価の還元</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	受講者が多いので前半は講義を中心に進めます。後半は聴き合いやディスカッションを取り入れます。何度かは映像資料も折り込みます。
評価方法 Evaluation	平常点40点（授業参加度、コメントカード、レポート発表などを総合する） 学期末レポート60点（教育原理の知識を踏まえて、現代日本の教育問題を論じる）
履修上の注意 Requirements and policy	教科書は授業でも使いますが各自でも読んでください。また必要な資料は配付して参考文献も紹介します。参加者が自分の物語をテキストに仕立ててほしいです。
教科書 Textbook(s)	上野千鶴子『サヨナラ、学校化社会』ちくま文庫、2008年。 ISBN:978-4-480-42460-0
参考書 Reference(s)	教科書は指定するが、必要な資料を配布し、参考文献も紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	生涯学習概論						
担当教員	木村 拓也						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~4	単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>生涯学習の主要な理念・動向を理解した上で、図書館司書・博物館学芸員としてふさわしい生涯学習観を修得する。</p> <p>講義の目的は、生涯学習の理念・動向を十分に踏まえた上で、受講者各自が、図書館司書・博物館学芸員を目指す者として必要とされる「生涯学習観」を修得することにある。まず、ユネスコで出された宣言、日本での生涯学習政策などに関する一次資料の解説を行うことで生涯学習の歴史的な経緯を確認する。その上で、現在、生涯学習が必要とされている領域、世代ごとに異なる生涯学習への学習課題などを、統計データを示しながら検討する。また、営利活動ではない図書館・博物館（美術館）の活動実態を踏まえて、生涯学習を支える行政機構のしくみを、特に、予算面の事情を中心に解説する。また、生涯学習社会の基盤となる、文化政策学・文化経済学の動向・事例を紹介することも併せて試みる。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 生涯学習の理念と動向</li> <li>3. 生涯学習の領域</li> <li>4. 世代間の学習課題の相違</li> <li>5. 生涯学習と行政機関</li> <li>6. 図書館司書・博物館学芸員と生涯学習</li> <li>7. 文化政策学・文化経済学の最前線</li> <li>8. 講義のまとめと質疑応答</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式で行う						
評価方法 Evaluation	課題図書の内容・授業内容を踏まえた上で「図書館司書と生涯学習」或いは「博物館学芸員と生涯学習」というテーマでのレポート提出を求めます。詳細は、授業中に指示します。評価比率については、出席状況や授業での発言など講義への貢献20%、レポート課題80%とする。						
履修上の注意 Requirements and policy	初回講義で評価方法について詳細に説明しますので、遅れないよう出席して下さい。						
教科書 Textbook(s)	<p>教科書は指定しませんが、課題レポート提出のために、下記の新書のいずれかを課題図書として1冊購入する必要があります。</p> <p>菅谷明子2003:『未来をつくる図書館－ニューヨークからの報告－』岩波新書、ISBN-10: 4004308372</p> <p>中野民夫2001:『ワークショップ－新しい学びと想像の場』岩波新書、ISBN-10: 4004307104</p> <p>平田オリザ2001:『芸術立国論』集英新書、ISBN-10: 4087201120</p>						
参考書 Reference(s)	<p>高山正也、西川万文・中村正之・村田文生2002: 『司書・学芸員をめざす人への生涯学習概論』樹村房、ISBN-10: 4883670643</p>						
備考 Remarks	居眠り・私語は厳禁です。随時注意をし、減点の対象とします。						

科目区分	博物館学芸員課程科目							
科目名	視聴覚教育メディア論							
担当教員	高久 智広							
学期	前期	後半	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>視聴覚メディア論</p> <p>近年、デジタル技術の発展と革新は著しく、博物館においても展示や教育普及活動にマルチメディアをはじめとする視聴覚メディアが活用されてきている。</p> <p>視聴覚機器や技術の発達著しい現代において、それらの活用を考える上で、視聴覚メディアの発達の歴史を知り、その特性を理解することは不可欠である。公儀では、視聴覚教育とメディアについて理解し、学芸員として、現代の博物館における視聴覚メディアの活用方法を考え、さらにメディアに関わる判断力を身につける内容としたい。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス・「視聴覚教育メディア論」とは</p> <p>第2回 I 視聴覚教育・視聴覚メディアとは</p> <p>第3回 II 視聴覚教育メディアの種類と機能</p> <p>第4回 II 視聴覚メディアの種類2</p> <p>第5回 III 博物館における視聴覚メディアの活用1</p> <p>第6回 III 博物館における視聴覚メディアの活用2</p> <p>第7回 IV 情報モラルとメディア・リテラシー</p> <p>第8回 博物館の展示・教育普及における視聴覚メディアの活用案 (課題レポート発表)</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	平常評価。平常点（小レポートと発表）、出席点（欠席の場合は減点）を重視。授業日程後半に課題を出し、2週間後（予定）に小レポートを提出、次時限の授業でレポート内容の発表を行う。
履修上の注意 Requirements and policy	博物館・美術館での視聴覚メディアの活用に視点を置いて、できるだけ多くの館を見学されることを希望します。
教科書 Textbook(s)	特に指定しません。プリント配布。
参考書 Reference(s)	視聴覚メディアと教育 佐賀啓男編（樹村房） 博物館映像展示論—視聴覚メディアをめぐる— 青木豊（雄山閣）
備考 Remarks	

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館概論						
担当教員	三好 唯義						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	博物館の基礎知識と現状の把握。 博物館の基本的な活動として、資料の収集と保管、展示や普及などが挙げられる。しかし現在の博物館は社会教育施設として、生涯学習の推進、「学社融合」「博学連携」の取り組みなど、多様な役割が期待されている。また国立博物館などの独立行政法人化、指定管理者制度の導入など、博物館を取り巻く社会環境や経済情勢は近年大きく変化している。博物館を自らの問題とするために、講義では基礎的な概念と知識、現在における課題と問題点を取りあげ、その考察と把握に努める。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館の目的と機能 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1回) 博物館とは</li> <li>(2回) 博物館の基本的機能その1 (調査・研究)</li> <li>(3回) 博物館の基本的機能その2 (収集・保存)</li> <li>(4回) 博物館の基本的機能その3 (展示)</li> <li>(5回) 博物館の基本的機能その4 (博物館教育)</li> </ul> </li> <li>2. 博物館の歴史 <ul style="list-style-type: none"> <li>(6回) 海外の博物館史</li> <li>(7回) わが国の博物館史</li> </ul> </li> <li>3. 博物館倫理 <ul style="list-style-type: none"> <li>(8回) 博物館の組織</li> <li>(9回) 博物館と博物館専門職の倫理</li> </ul> </li> <li>4. 博物館関係法規 <ul style="list-style-type: none"> <li>(10回) 博物館法ほか</li> </ul> </li> <li>5. 生涯学習と博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>(11回) 博物館と生涯学習</li> <li>(12回) 博物館と地域社会</li> <li>(13回) 博物館とボランティア</li> </ul> </li> <li>6. これからの博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>(14回) 日本の博物館の現状と課題</li> <li>(15回) 「博物館の望ましい姿」</li> </ul> </li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式にておこなう。
評価方法 Evaluation	平常評価（出席、態度、発表、課題レポート提出等）70%と、期末レポート30%にて、総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	出席（3分の2以上）と、テーマに取り組む姿勢を重視する。 受講生は多くの博物館施設を見学していることが望ましい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。 新編 博物館学 倉田公裕・矢島國雄著(東京堂出版) 博物館学ハンドブック 高橋隆博他編著(関西大学出版会)
備考 Remarks	

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館学各論						
担当教員	問屋 真一						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	3～4	単位数	4.0

授業の目的、概要 Objectives and content	博物館の資料論として主として人文系資料の収集・整理・調査研究、保存、活用について学び、次いで情報論、経営論として、博物館を取り巻く近年の状況を踏まえた今日的課題について理解する。
授業計画 Syllabus	<p>前期 博物館資料論</p> <p>第1回 博物館の基本的機能 第2回 人文系資料の収集・整理・調査研究 第3回 人文系資料の収集・整理・調査研究 第4回 人文系資料の収集・整理・調査研究 第5回 人文系資料の保存と修復 第6回 人文系資料の保存と修復 第7回 自然科学系資料の収集の特徴 第8回 自然科学系資料の収集の特徴 第9回 博物館資料の活用 常設展示 第10回 博物館資料の活用 常設展示 第11回 博物館資料の活用 企画展示 第12回 博物館資料の活用 企画展示 第13回 博物館資料の活用 教育普及 第14回 博物館資料の活用 教育普及 第15回 資料論のまとめと試験等</p> <p>後期</p> <p>第1回 館活動の情報化、ネットワーク 第2回 知的財産権と博物館 第3回 博物館経営とは何か 第4回 博物館の組織と学芸員 第5回 博物館の組織と学芸員 第6回 博物館の施設と設備 第7回 博物館の施設と設備 第8回 博物館の行財政 制度と施策 第9回 博物館の行財政 国立館 第10回 博物館の行財政 国立館 第11回 博物館の行財政 公立館 第12回 博物館の行財政 公立館、私立館 第13回 博物館評価と市民サービス 第14回 博物館評価と市民サービス 第15回 情報論経営論のまとめと試験等</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験またはレポートに加え、出席状況、提出物や授業態度、意欲などの平常点を重視する。
履修上の注意 Requirements and policy	出席、自主的な展覧会見学を重視する。なお講義の一環として近隣の博物館等を見学することがあり、そのときは入館料、交通費等の実費負担が必要となる。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。

参考書 Reference(s)	講義中に適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	博物館学芸員課程科目						
科目名	博物館実習／宗像 衣子・坂上 義太郎						
担当教員	宗像 衣子・坂上 義太郎						
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	3.0

授業の目的、概要 Objectives and content	博物館学芸員課程の4年間の総まとめとして開講される。博物館実務実習のために、事前指導、館務実習、見学実習、事後指導からなる。
授業計画 Syllabus	不定期の授業時間になるが、まだ未定部分が多いので、登録を許可されたものは、4月の第一回目の授業に出席して、授業日程と具体的内容についての説明を受けること。
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と実習
評価方法 Evaluation	平常点80%、レポート等20%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視。常に掲示に注意すること。 科目内容である実習は学外研修になります。 見学実習の入場料・交通費は実費負担。 館務実習の費用については、学生便覧に記載の通りですが、第一回目に説明します。
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	